令和４年度小松市立松東みどり学園　学校評価２

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
生徒指導	いじめ・不登校の未然防止と早期発見 ・いじめに対する積極的認知を行うために，職員会議で生徒指導主事が中心となって情報共有，共通理解を図る。 ・不登校の未然防止を図るために，生徒指導三機能を生かした魅力的な授業作りや，仲間を認め合うことのできる児童生徒会活動を展開する。 ・不登校傾向の児童生徒や欠席が２日連続で続く児童生徒へは，担任による定期的な家庭訪問を実施する。また，学期ごとに個人面談や友達アンケートを実施し早期発見に努める。	・職員会議ごとに児童生徒理解の時間を確保し，共通理解を図っている。また，職員間での日常的な報告連絡相談で，前期課程と後期課程の間でスムーズで密な情報交換を行っている。 ・教職員に対していじめに関する研修会（8/1）を実施し，事例検討を通して組織的な対応力を高めた。 ・不登校傾向の児童生徒には，時間外の登校や別室登校など柔軟な対応を実施しており，登校が難しい場合は保護者との連絡を密に行った。 ・２日連続で欠席が続く子どもはわずかであったが，人間関係で悩みを抱える子どもが複数おり，懇談や話し合いを行って丁寧に対応した。 ・SCや外部機関との連携を図り，児童生徒の心のケアにつなげていく。	・いじめの未然防止と早期発見を図るため，前後期課程一貫した教職員間の情報交換を綿密に行い危機意識を高めていくように努めた。児童生徒に対しては，いじめアンケートや悩みアンケートを実施して，結果をもとに即座に個人面談を実施し，継続的に見守ることができた。 ・不登校傾向の児童生徒に対しては，担任が密に連絡を取り合い，登校のパターンを複数提示するなどして学校との関係が途切れないように努めた。副担任や養護教諭，関係機関とも連携して対応することができた。今後も継続してケアできるように情報交換したり連絡を取り合ったりしていく。
特別支援教育	児童生徒理解を深め，特別支援教育の充実を図る ・児童生徒理解の会において，気になる子について共通理解するとともに支援について協議し，組織的な対応を行う。 ・校内委員会を定期的に行い，要支援児童生徒に対する効果的かつ早期の対応を検討する。また，関係諸機関との連携を密にし，より有効な支援のあり方を追求する。	・毎月の児童生徒理解の会で情報共有を行い，組織的対応に努めた。また，職員間の日常的な報告連絡相談で，学年をまたいでスムーズで密な情報交換を行っている。 ・全学年の児童生徒について校内支援委員会を開催し，要支援の児童生徒の実態と特性について共通理解をするとともに，支援について協議した。 ・スクールカウンセラーの沢田先生を講師に教育相談の会を行い，児童の心のケアや保護者との連携について理解を深めることができた。	・定期的な児童生徒理解の会や校内委員会のほか，要支援児童生徒について支援会議を開催した。その際，教育相談員や専門相談員等の参加を要請し，児童生徒の特性の理解を深めるとともに，支援策を具体化することができた。 ・級外職員，支援員，心の相談員スクールカウンセラー等が機を逃さず対応してきたことにより，児童生徒に適切な支援を行うことができた。さらに専門相談員と連携し，授業の様子を見取るとともに，検査結果からの支援計画を立てることができた。今後は具体的な支援がより効果的なものとなるようにしていく必要がある。
道徳教育	家庭と連携し，道徳教育の向上を図る ・家庭と連携した道徳教育の推進を目指すために，全学年における保護者参加型の授業公開をする。 ・個々での教材研究・授業実践となっているため，教材研究に関する相談の機会や職員間の参観の場を設けるなど，授業力向上につながる校内の仕組みづくりを進めていく。昨年度取り組んだ「授業構想シート」も活用していく。	・年度当初に保護者参加型の授業の提案をし，４月の授業参観の際，8年生で実践した。その他の学年は２・３学期に取り組む予定である。 ・「家族愛」の教材で学習した後に，親子の手紙の取り組み，価値をさらに深めるようにした。 ・計画訪問の研究授業においては，事前に指導案検討や模擬授業を行い，授業づくりについて相談する機会を設けることができた。日々の授業実践のための相談の場を設定することが実現できていないため，２学期は低・中・高・後期課程で道徳の教材研究や発問の仕方などの相談の機会を３回設ける予定である。	・保護者の方への道徳の公開授業は全学年達成できたが，保護者参加型授業の実現は難しかった。唯一，５年生では保護者に児童と同じ教材を配付し事前にメッセージを貰い，間接的に授業に参加する機会を設け，価値をより高めることができた。 ・道徳通信を発行し，それぞれの学年の授業実践を紹介したり，人権集会や絆集会での取り組みを家庭に発信することができた。 ・道徳相談会の日を設定したが，未実施の学年があるので，３学期に予定を入れて実践する機会を設ける。実施できた相談会の中では，多角的な発問について考えるなどよりよい授業実践につながる教材研究ができた。
キャリア教育	キャリアパスポートの活用によりキャリア教育を推進する ・「めあて→活動→ふりかえり→次に生かす」の流れを定着させ，それぞれの学年の実態に応じて「キャリアパスポート」を活用しながら，自己の成長を見つめ，実感させていく。 ・各学期のめあてはフィッシュボーンを使って立てさせ，定期的にふり返り，できたところや心がけたいことを意識させ，声をかける。 ・体験的活動や啓発的活動では，地域人材や卒業生を招き，効果的に活用する。	・キャリアパスポートを活用して，４月当初に立てためあてについて５月と７月に自己評価を行った。 ・７月のふりかえりでは，どの学年のキャリアパスポートにも，４つのめあてそれぞれについて成長を実感したり，２学期に向けて前向きな思いをもっている様子であった。 ・体験的活動や啓発的活動では，地域人材を招き授業を行った。 ・２学期も引き続きキャリアパスポートを活用していく。体育祭・文化祭は，「めあて→活動→ふりかえり→次に生かす」の流れを充実させることで，大いに成長を実感できる良い機会としたい。また，地域人材や卒業生を招き，効果的に活用することを継続していく。	・体育祭では「めあて→活動→ふりかえり→次に生かす」の流れで，なりたい自分に近づいた児童生徒が多くいたことが分かった。文化祭では，ふりかえりに丁寧に取り組んだり，成果の価値づけを意図的に行ったりすることにより，達成感や充実感を高めることができた。 ・体験的活動や啓発活動では，地域人材や卒業生，外部の専門家を招き授業を行った。 ・１２月のふりかえりでは，どの学年のキャリアパスポートにも，自分の立てためあてを達成できたことに加え，内面の変化についての記述があった。また，３学期のめあてにつながる記述もあり，自ら課題を見いだしていることは成果といえる。 ・３学期も引き続き学校行事を核として，キャリアパスポートを活用していく。また，フィッシュボーン型のワークシートについてはそれぞれの学年の実態に応じて活用しやすくなるように，来年度に向けて内容や形式などについて改善していく。
保健健康教育	自分の健康や体を自分で守ろうとする意識を育む ・委員会活動など児童生徒が主体的に考えた企画を通して，児童生徒の運動機会を増やしたりよりよい生活習慣を目指す。 ・K’ｓ体操クラブの方やダンス講師など様々な分野の専門の先生をお招きして，健康や運動への職員の理解を深め，運動の楽しさに触れる授業が充実するようにする。	・保健給食委員会では児童の発案で，万歩計を付け運動量を増やすことをねらいとした活動に取り組んだ。自分の活動量を知り，運動量を増やそうとする児童の意識を高めることができた。取り組みは３年生以上であったが，１，２年生にも波及し積極的に階段の上り下りをしたり体を動かした遊びをしたりする姿が見られた。 ・生活体育委員会では，アンケート結果を基に企画した「全校遊び」を通して全校で運動の楽しさを味わうことができた。 ・プロのダンス講師を招いての授業は子ども達が生き生きと楽しく活動する姿がどの学年でも見られた。各学年４時間という短時間であったが完成度が高く，達成感も味わえる充実した内容であった。体育の授業の他領域の時数確保にもつながる有意義な取り組みとなった。 ・２，４，５年生で外部講師指導による水泳教室を実施した。学年に応じた指導で児童は水泳の楽しさを味わい，教員の指導に生かすことができた。５，６年生は消防署職員による着衣泳体験を行い，水の活動における安全な知識技能を学んだ。	・児童生徒が自分自身の日常生活への諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解することができるように，アンケートから見えてきた実態と課題をもとに学校保健委員会のテーマを睡眠とし，より良い睡眠習慣となるように働きかけることができた。就寝時刻とネットの使用時間についてめあてを立て，取り組み期間を家庭学習強化週間と関連させるなど教務部との連携を図ることができた。 ・前期課程では，K’S体操クラブの方を講師として跳び箱教室を行った。跳び箱を苦手とする児童は多かったが，レベルに応じたコース分け，スモールステップ，指導者の前向きな声掛けなどにより，少しずつ恐怖心を和らげどの子も楽しそうに活動することができた。 ・今後は器械運動種目実施にあたり，けがの防止に努める。安全面に十分配慮した場の設定や体つくりの運動を取り入れた指導など教員の意識と指導力を高めていく。 ・冬休みも体を動かすことができるようにタブレットを持ち帰り，手本動画を見ながら「なわとび検定」に取り組み，技の向上と体力の向上を図る手立てとした。 ・スキー教室に向けて，SAJ準指導員の資格を持っている職員のもと校内研修を行い指導力向上に努めた。
特色づくり	9年間の学びの中でグローバル社会を見据えた教育を推進する 【みらい探究科】 ・各学年でのみらい探究科の学習の成果を，校内外に発信する。その際ステージⅡ以上の学年では英語で発表できるように取り組む。 【英語教育】 ・１・２年生のglobal timeから９年生の英語学習まで,全ての学年にALTが参加し,本物の英語に触れる機会を設け,進んで英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育む。	【みらい探究科】 １学期は各学年の探究課題に沿って，体験活動や聞き取り調査をしたり，外部人材の活用により学びを深めたりして，それぞれの課題に向かって活動した。２学期は１学期の活動を踏まえて生まれた新たな課題について探究を進める。また，発表の機会を設定し，必要な技能や表現力を身につけさせる。 【英語教育】 今年度も授業は全学年ALL Englishで行っている。ALTや外部人材との交流を授業に取り入れ,児童・生徒が学習した知識を用いて自分の思いなどを発表する場面を設けることができた。低学年児童においても課外に進んで英語で挨拶をしたり,ALTの先生に話しかけたりするなど,日常的にコミュニケーションを図ろうとしている姿が見られた。	【みらい探究科】 外部人材を招いて専門的な技能や知識を身につける活動を行うことができた。また，９年においては個々のテーマに沿って深めたことを英語で伝える場を設けることができた。しかし，探究学習の発信の場を設けられていない学年もあるので，３学期に場を設ける。 【英語教育】 全学年の授業にALTが参加し,児童・生徒が本物の英語に触れる機会を豊富に設けることができた。また,授業外にも外国の文化的行事に合わせてハロウィンやクリスマスなどのイベントを体験することを通して,外国の文化について理解を深めることができた。後期課程では,学習活動を発信する場面で外部人材を招き,その場でやりとりをすることで,生徒自身が自分の英語力を客観的に捉え,今後の目標を持つことに繋げることができた。

学校関係者評価	・他小学校での６年生に比べ、リーダーとしての活躍の場が少ないのではないか。体育祭時などに９年生のサブリーダーとして６年生に役割や担当としての意識をもたせ、意図的に成長の場面を設定すると良い。今後、９年間の教育である良さをどう発揮するか、義務教育学校の特別性をもたせていくとよい。 ・学習について、スクールバスがあることで補充や定着への取り組みに制限が生じると思われる。また逆に、「道草を食う」という様々な体験や学びの機会が失われているのかもしれない。 ・ネットの若い人の悪ふざけや迷惑行為が目に余る。指導するのは家庭だけ、学校だけでは難しい。学校で指導された時だけではなく、自由な時間にも自制ができるよう、道徳での取り組みや保護者を巻き込んで意識を高めていくなど、情報モラルの教育をしていかねばならないと思う。 ・「ありがとう」がいっぱい言えるような子どもを育ててほしい。それが道徳の家族愛につながると思う。 ・学校評価の目標指数について、子どもに関することは求めすぎると負担になるので、100％まで求めなくてもよいのではないか。 ・それぞれの行事が「校訓」や「教育目標」のどこから派生しているのかが欠落している。関連性を明確にしなければならない。 ・先生方が児童生徒や保護者への対応を丁寧に行っているが故かとは思うが、学校の電気が平日や休日にも遅くまで消えないことを地域の方々は心配している。するべきことを吟味して、働き方についてさらに改善を図ると良い。